

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

神奈川県

学校名

神奈川県立伊勢原支援学校

人権課題

子供

対象学年・  
取り扱った教科等

訪問部・小学部  
生活

時数等

2時間

目標・人権教育のねらい

- ・地震が起きた時の、自分の命を守る方法『生きる力』を身につけることができる。
- ・あきらめずに『生きる力』を身につけ、自分自身を大切にすることができる。

実施した内容

- ・地震のときの危険な場所と安全な場所を考える。
- ・地震の揺れから安全な方(教員の方)へ脱出し、自分の命を守る力を身につける。

工夫した点

- ・単元名を「脱出マスターになろう!」とし、習得することに興味をもてるようにした。
- ・災害の写真を見せ、地震が起きた時の危険な状況をイメージできるようにした。
- ・YURETAマットを使用し、実際に揺れる場所から教員が呼ぶ方へ逃げる体験を行った。
- ・揺れから脱出できた際に、「頑張ったこと」や「あなたが大切」というメッセージが伝わるように教員がハイタッチなどのスキンシップをして喜びを伝えた。

他教科との  
関連

- ・脱出時の身体の動かし方などは、日頃の体育の体操で身につけた力と関連している。
- ・道徳や「日常生活の指導」の中で、友だちの気持ちを考えたり、優しい言葉かけをしたりする学習を積み重ねている。他者を思いやる気持ちについて、関連が見られた。

事業成果

- ・知識的側面:地震の際の危険な場所を理解し、自分の命を守る方法を知ることができた。
- ・価値・態度的側面:脱出することで、達成感や自分の存在を肯定的にとらえることができた。
- ・技能的側面:生きる力を身につけるとともに、友だちを応援したり、友だちの頑張りを評価することができた。

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

神奈川県

学校名

神奈川県立伊勢原支援学校

人権課題

障害者

対象学年・  
取り扱った教科等

分教室2年  
美術

時数等

(鑑賞は通年)  
2時間

目標・人権教育のねらい

- ・障害特性などにより、他者の気持ちを想像することが難しい生徒が、他者の考えを聞くことで、自分の考えとは異なることを知り、いろいろな考え方や気持ちを理解する。
- ・好みの色や形、表現方法は一人ひとり異なり、互いに認め合う気持ちを育てる(鑑賞)。

実施した内容

- ・制作後の鑑賞時に、他者の作品の良いところを言葉で表現する。
- ・「考えを知ろう」「どっちがイヤ」などのゲームを通し、自分の考えや他者の考えを知り、人それぞれの考え方があることを理解する。

工夫した点

- ・障害特性などにより、他者の考えを想像することが難しい生徒へ、授業の振り返りで作者の意図や鑑賞者の感想を言葉で伝えあい、好みや感じ方が人それぞれ異なることを理解できるようにした。
- ・自分の考えを説明したり、他者の考えを想像したりするゲームを通し、様々な考え方やその背景を知り、「自分とは違う」を知り、認め合う時間とした。
- ・ゲーム後に感想を出し、考え方の違いを「面白い」「参考になる」などプラスの表現でまとめた。

他教科との  
関連

- ・ソーシャルスキルトレーニングで既習の他者理解や他者とのコミュニケーションと関連。
- ・国語での文章の読み取りや表現活動と関連。

事業成果

- ・知識的側面:好みや考え方は人それぞれ異なることを理解することができた。
- ・価値・態度的側面:自分の考えを表現したり、他者の考えを聞いたりする意欲や態度を身につけることができた。他者の考えを想像することができた。また、翻訳機の使用により、外国につながりがある生徒も、自分の考えをより正確に詳しく表現することができるようになった。
- ・技能的側面:自分の好みや考え方の自己理解、他者の好みや考え方の他者理解から、当事者による障害特性等を含めた相互理解につながり、それぞれの考えなどを尊重することができた。

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

神奈川県

学校名

神奈川県立伊勢原支援学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・  
取り扱った教科等

分教室1年  
美術

時数等

2時間

目標・人権教育のねらい

・先住民族について、その歴史と文化を知り、「アイヌ文様」の切り絵作品作りを通して文化を大切に暮らしている人々を尊重する心を育てる。

実施した内容

・先住民族について調べ、世界の先住民族が使用しているそれぞれの文様の特徴を考える。  
・「アイヌ文様」の切り絵のデザインに取り組み、「アイヌ」の人々が大切にしている文化に触れる。

工夫した点

・導入時に、自分で調べたり発表したりすることにより興味を持ちやすくした。  
・様々な文様の特徴を言葉で表現し、アイヌ文様の特徴を理解して取り組んだ。  
・切り絵を台紙に構成する前に、切った作品を見せ合い、作り方を教え合うことでデザインの幅が広がるようにした。

他教科との  
関連

・既習の社会科の歴史や地理の内容から、世界の先住民族や植民地などの歴史、北海道の位置や近隣の国との位置関係、歴史背景と関連づけた。

事業成果

・知識的側面：アイヌを含めた先住民族の歴史や文化について知ることができた。  
・価値・態度的側面：文化を大切にすることについて考えることができた。  
文様を通して文化の違いを知り、その文化を大切にしている人々を尊重しようとする姿がみられた。  
・技能的側面：アイヌ文様の切り絵作品制作や相互に鑑賞することをとおして、文様の持つ味わいや良さを認め、発表することができた。

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

神奈川県

学校名

神奈川県立伊勢原支援学校

人権課題

外国人

対象学年・  
取り扱った教科等

訪問部 小学部・中学部  
生活(小)、社会(中)

時数等

2時間

目標・人権教育のねらい

・日本発祥ではない食品等が、どこの国の物なのかを知り、外国に関する興味・関心を広げ、日本と外国(中国を中心に)の文化の違いに触れ、その文化の人々を認め合う態度を育てる。

実施した内容

- ・国の名前や位置、国旗を確認する。
- ・身近な食べ物が、どこの国の物か考える。中国の食べ物で好きな物を話し合う。
- ・日本の獅子舞と中国の獅子舞の違いを発見したり、中国雑技の素晴らしさを鑑賞したりする。

工夫した点

- ・既習の内容や理解力等も異なるため、国名や場所についてクイズ形式にして学習した。
- ・主に「身近な食べ物(ラーメン、カレー、ハンバーガーなど)」を扱い、どこの国の物かを考えさせ、興味が持てるようにした。
- ・中国獅子舞と雑技を鑑賞し、実際に中国の文化に触れることができたようにした。

他教科との  
関連

- ・外国の食文化について、生活科や家庭科での調理体験などに関連づけて説明した。
- ・鑑賞を通し、音楽や舞台芸術を含めた中国の文化に触れる。

事業成果

- ・知識的側面:世界の国の位置やその国の食べ物等、外国の文化や、その文化で生活する人について知ることができた。
- ・価値・態度的側面:身近な食べ物や雑技などの鑑賞を通して、外国の文化や日本とのつながりに興味をもつことができた。
- ・技能的側面:日本と同じところ・違うところを見つけ、外国の文化の良いところを認めることができた。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

|                |  |                   |               |              |     |
|----------------|--|-------------------|---------------|--------------|-----|
| 都道府県・<br>指定都市名 | 神奈川県   |                   | 学校名           | 神奈川県立伊勢原支援学校 |     |
| 人権課題           | ハンセン病患者等   | 対象学年・<br>取り扱った教科等 | 高等部1年<br>課題学習 | 時数等          | 1時間 |
| 目標・人権教育のねらい    | ・病気に対する偏見や差別があった歴史を知り、相手の状況や気持ちを思いやって行動できる力を育てる。   |                   |               |              |     |
| 実施した内容         | ・ハンセン病患者等の差別の歴史について、スライド教材や動画を用い、理解しやすいようにした。<br>・自分や自分の家族が病気により差別されたらどう感じるか考えることを導入とし、相手の状況や気持ちを思いやることの大切さ(身近な者が病気の時や他者による言動など)について話し合った。   |                   |               |              |     |
| 工夫した点          | ・関心をもちやすいよう、ハンセン病患者が登場する身近なアニメ映画を部分的に視聴した。<br>・自分や家族がインフルエンザやコロナなどの感染症にかかった時の生活(出席停止等)を想起させ、隔離政策により人権を侵害をされた方々のつらさについて考えられるように展開した。<br>・他者を思いやるために、自分や自分の身近な人が病気にかかって差別を受けたらどう感じるかについて考えさせた。 |                   |               |              |     |
| 他教科との<br>関連    | ・病気の理解や健康状態の維持改善という面は自立活動の「健康の保持」と関連がある。<br>・他者との関わり・他者の意図や感情の理解といった面は「人間関係の形成」につながる。疾病の予防理解については保健体育の保健分野とも関連する。国が行ってきた政策の歴史的な背景を知ることは社会科(歴史)につながる部分である。                                    |                   |               |              |     |
| 事業成果           | ・知識的側面:ハンセン病患者の受けた差別や歴史、現在に続く差別について知ることができた。<br>・価値・態度的側面:自分や身近な人のこととして捉え、日常の思いやりの大切さに気付くことができた。<br>・技能的側面:ハンセン病問題の歴史を知って考えたことや、自分や家族が病気にかかった時の状況や様子について、自分のやり方で表現することができた。                  |                   |               |              |     |

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

神奈川県

学校名

神奈川県立伊勢原支援学校

人権課題

インターネットによる  
人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

高等部1~3年:特別な教科道徳  
自立活動  
分教室1~3年:総合的な探求の時間

時数等

2時間

目標・人権教育のねらい

- ・SNSについて、自分自身の安全やプライバシーを守るための利用法を学ぶ。
- ・公共の場でスマートフォンや携帯電話等を利用する場合のマナーについて学ぶ。
- ・いじめ等のトラブルに巻き込まれないための情報モラルを身に付ける。

実施した内容

- ・通信事業者の派遣講師によるスマホ安全教室を本校体育館にて実施した。
- ・講演終了後に各教室で振り返りを行い、生徒向けアンケートを実施した。

工夫した点

- ・講演で使用する動画について、高等部と分教室でそれぞれ実態に合ったものを選択した。
- ・特に分教室については、スマホ等の利用実態に合わせて、「炎上動画作成の怖さ」等についても学習した。

他教科との  
関連

- ・国語科「言葉の選び方」や、社会科「身近な社会生活」の単元において、対人関係やコミュニケーションに対する理解を深められた。

事業成果

- ・知識的側面:スマートフォン等の安全な活用方法とルールやマナーを理解することで、自分や他者を傷つけないことにつながると理解できた。
- ・価値的・態度的側面: SNSでのトラブルの可能性や情報モラルの大切さを実感し、自分ごととして考える生徒が増えた。
- ・技能的側面: SNS等について、相手の気持ちを考えてから投稿することや不快なことは書き込まない等、相手の立場に立って考えられるようになった。